

2 中高連携英語力向上 第2年次の歩み

(1) 岐阜県立各務原西高等学校における実践

<授業実践>

授業実践に向けての構え

- ・リスニング能力を伸ばすための効果的なリーディング指導法を研究する。
- ・意欲的にコミュニケーションを図ろうとする生徒を育てる指導法を研究する。

第1回授業交流研究会

【期日】 平成18年6月1日(木)

【公開授業】

- ・単元名 MAINSTREAM Lesson 4 “Sadako”
- ・授業学校・学年 各務原西高等学校 1年
- ・主な提案内容

- (1) 導入時にリーディングを通して本文の概要・要点をつかむ。
- (2) 生徒が活発に活動できる指導方法を工夫する。

【授業研究会】

- ・クラスルームイングリッシュに生徒が自然に英語で反応できるのは、中学校の指導の成果である。
- ・シャワーを浴びるように自然な英語をいっぱい聞きながら、生徒一人一人が大切にされ楽しく参加できる授業であった。このような授業を続ければ、自己表現を生かした授業が可能になる。
- ・生徒の理解を助けるための発問の工夫がされている。ペアやグループによる活動、全員を立たせたり手を挙げ指の数で答えさせたりするなど、活動に変化があり、よく工夫されていた。
- ・大型の本物の折鶴を使っのブレイン・ストーミングは、生徒の興味・関心をふくらませることができた。また、それにより、単元のねらいが明確になり、課全体を見ることができた。
- ・生徒の動きが鈍くなった時は、生徒の理解の確認を一つ一つ丁寧にやるとよい。活動を活発にするために、タスクシートを活用したり、難しい文をマグネットで黒板に貼ったりするなどの工夫が必要である。また、リスニングの活動を入れると活性化につながる。

第2回授業交流研究会

【期日】 平成18年11月20日(月)

【公開授業】

- ・単元名 MAINSTREAM Lesson 9 Addicted to TV
- ・授業学校・学年 各務原西高等学校 2年
- ・主な提案内容

- (1) 速読力を伸ばすために、一字一句にとらわれずに大まかに意味をとらえることができるようにする。
- (2) 生徒が授業に対して取り組む意欲を高め、生徒の理解を助けるためにグループ活動を取り入れる。

【授業研究会】

- ・昨年度から授業交流で授業を参観するごとに生徒の活動量が増えてきた。
- ・代名詞の指す内容を想像して読むなど、生徒が単語を辞書で調べず、文脈や自分の生活の中で想像してその意味をとっていくように指導すると、推測して理解するという習慣が身に付いていく。
- ・Lesson 全体から入っていくことが良い。生徒に自分で考える時間を与えることは introduction 語彙の確認 音読のパターンが多い中、意外に飛ばしてしまうことである。
- ・生徒をできるだけ動かすようにして、生徒中心で授業を進めることで、授業を活性化させようとしている。従来の授業のやり方を変えていこうとする姿勢が見られる。
- ・本時の授業のポイントになる言葉や板書がなかった。導入として最初に動機付けがあれば、生徒が理解しやすい。
- ・聞きとりの確認をするためには、要旨の文のみの並べ替えのほうがリスニングの活動が生かされる。全文を目にすると聞き取りの活動が生かされない。
- ・前半のスキミングと後半のスキャニングの間にスキミングで理解したことを確認する活動があればよかった。そうすると「先生の言うとおり大雑把に読んで理解できた。」と生徒が実感できる。
- ・読み取りの手立てを工夫することが必要である。速読を通して全体を理解し、その後で細かい部分を読み進めるようにしたい。例えば、「大きな観点」（本時のテーマについて考える）や「小さな観点」（drugの種類を考える）を示して生徒に読ませるようにするとよい。
- ・初めて聞いてどれくらい理解できるかに配慮して、教材を提示する必要がある。難しい文の場合は、意欲をなくす生徒もいる。「何が書いてあるか」、「読んでみたい」と生徒に思わせることが大事である。そのためには、聞かせる前にポイントを提示したり、Oral Introduction で生徒の興味を惹いたりするとよい。そこから、addictedの意味が推測できる。また、並べ替えの後に理解を確認することが必要である。パラグラフ、Partの概要の確認、タイトルづけにより理解を深めることができる。意味理解や文構造の理解を日本語訳のプリント等の工夫で効率的に行い時間短縮をする。



<グローバル・スタンダードによる英語力分析調査>

【期日】 平成18年11月16日(木)

【受験者】 71名(1年生31名、2年生31名、3年生9名)

【結果分析】

- ・平均点は分野別ではリスニングが最も高く、得点の分布が最も狭い。次に平均点が良かったのは表現・文法の知識であるが、得点の分布が非常に広い。読解力は平均点が最も低く、得点の分布はリスニングより広い。以上の平均点と得点の分布の傾向は、昨年と同じである。
- ・昨年に引き続き受験した生徒については、全体として力を伸ばした。希望して受験した3年生の生徒が昨年に比べどの分野でも得点を伸ばし、特に表現・文法と読解力の伸びが大きかった。

<学習環境の充実>

外部講師による特別講座

1年目はリスニングについての講座が中心であったので、今年度は生徒がコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めるためにネイティブの先生による活動を中心とした講座を実施した。

【期日】 平成18年10月16日(月)

【対象】 希望者12名

【講師】 英会話学校 講師 Alex Yardley 先生

【内容】

生徒と先生または生徒同士の活動を通して、英国についての知識を得ることができた。アメリカ英語とイギリス英語の違い、またイギリス英語の中の独特な言語についても知ることができ英語の多様性を実感できた。

外部講師による特別講座

【期日】 平成19年1月29日(月)

【対象】 2年生 文系クラス 全員 164名

【講師】 英会話学校 講師 Alex Yardley 先生、Gareth Thomas 先生

【内容】

文系クラスでの小人数のクラス2時間と普通クラス2時間をそれぞれのクラスに合わせて実施してもらった。英国人のネイティブの先生2人を中心に、生徒のリスニング・スピーキングの活動を目的とする授業を行った。

英語学習教材の購入

- ・英語検定、TOEFL, TOEIC対策問題集の購入

図書館において貸し出しをしたが、冊数が不足するほど好評であった。

- ・DVDと映画シナリオ本の購入

MAINSTREAM の Lesson 9 A Story behind "Titanic" の中でDVDを用いて字幕の付け方等について学んだ。

- ・Mainichi Weekly、Asahi Weekly の定期購読

図書館において生徒が読むことができるようにした。また、タイムリーな記事を教材に利用した。

<成果と課題>

2年間の交流を通して、中学校での授業の実態を知ることができ、大変参考になった。各課の目標、生徒に身に付けさせたい力が明確であり、生徒一人一人が自己目標をもって活動できるよう、きめ細かい指導がなされている。また、ペアやグループ活動などを通して生徒同士で学び合い、高め合う姿勢と生徒自身の意欲を大切にした授業が実践されている。

リスニングの能力を伸ばすことについて

- ・リスニング教材を授業に定期的に組み入れることにより、リスニング能力を段階的に伸ばすことができた。

- ・定期テストと実力テストにリスニング問題を出題し、普段からリスニングへの意識を高めることができた。

リーディングの能力を高めることについて

語彙力を付けるために、週1回の単語テストでは例文から出題し、文の中で単語を覚えるように指導した。また、CDを利用し音声と結び付けて例文を暗記することで定着を図った。

速読力を伸ばすために、各 Lesson の導入で一課全体を速読し、それから内容把握の確認を行った。

- ・速読教材を週1回程度取り入れた。毎回w p mを意識して読み、速読の力とスキミングやスキミングの力を伸ばすことができた。
- ・コミュニケーション能力テストの結果から、1年間でリスニングの能力が一番大きく伸びたことが明らかになった。また、リーディングの力も伸ばすことができた。速読力についてはw p mが伸び、語彙力もリスニングとリーディングで大きく伸びが見られた。

生徒が自信をもってコミュニケーションを図るために

音声による反復練習で英語のリズム、イントネーションに慣れることが大切であるのでCDを利用したオーバーラッピングやシャドーイングを心がけた。

意味をしっかりと理解し、相手に伝えるという意識をもって、また普段と同じ大きさの声で音読するよう指導した。

- ・授業の中で生徒を中心にしたペアやグループ活動などを取り入れるようにした。生徒同士で活動することが、生徒の理解を助け、自信を高めることにつながった。
- ・コミュニケーション能力テストを毎年受験することで、生徒が自分の技能別の能力を知ることができ、自己の課題を把握した上で目標を設定することができる。
- ・生徒の活動の時間を確保するために学年共通のプリントを用い、生徒の理解を助けることに役立った。

グループ活動は責任回避の部分もあるので、生徒一人一人に責任をもたせる工夫が必要である。TOEFL-ITP の結果から3年生の読解力が大きく伸びているのがわかる。これは多くの長文を読む機会が増えた結果であると思われる。1年生の段階からできるだけ多くの文を読んだり、速読の力を付けていくために教科書の効果的な使い方を考えたりして、授業の工夫をしていく必要がある。

コミュニケーション能力テストの結果から、ライティングの力が一番伸びていないことがわかった。「書く」機会をより多くもてるように、段階をふんで授業の中に組み入れていきたい。生徒の活動が理解の段階で終わることがないように、アウトプットまで行って理解の確認ができるようにしなければならない。またコミュニケーション活動を通して自分の知識・理解を表現に結び付けることで英語の力に自信をもつことができ、コミュニケーションを図ろうとする意欲も高くなる。その活動のための時間を確保するために、共通のプリントの工夫など学年間での意思疎通と共通の認識が必要である。

2年間の実践で得られた中学・高校共通の課題を意識して授業を改善していかなければならない。また、今後も中学校との交流が行われることが望ましい。